



▲力強い筆跡で「宗像宮道」と刻まれています

唐津街道を

見守ってきた道しるべ

昔、唐津街道の宿場町だった畦町区の外れには、古い石の道しるべがひっそりと立っています。今月は「宗像宮道」の道しるべを紹介します。

宗像市大穂へ抜ける旧唐津街道と県道530号線が交差する畦町区の四つ角に、「宗像宮道」と刻まれた道しるべが立っています。これは安政3年（1856年）、宗像大社の参拝者のために畦町宿の人々が建てたもので、長い間宗像大社への案内役となっていました。

昔、畦町区は宗像市赤間と古賀市青柳の中ほどに位置する旧唐津街道の宿場町として栄え、多くの人の往来でにぎわっていました。道しるべは、街道を往来する人や宿場町をめぐる時代の移り変わりを見守ってきました。そして160年という長い年月を経た現在も、畦町区の一隅に立っています。

さて、福津の古いものや伝統などを紹介してきた福津ふしぎ発見は今月号で一旦休載します。来月から、世界文化遺産登録を目指す「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産、新原・奴山古墳群を紹介するコーナーを始めます。お楽しみに。

